松苧神社

15 世紀に建てられたこの建物は、松苧神社の本殿であり、近隣の犬伏集落と深い関わりを持つ古い神社です。1978 年に国の重要文化財に登録され、2017 年から 2019 年にかけて大規模な修復が行われました。

歴史的資料によると、この神社は 807 年に創建され、カラムシ（十日町の伝統織物に使用される中心的な植物）に関連する女神、奴奈川姫を祀ったとされています。現在の建物は 1497 年に建てられたもので、新潟県では最古の茅葺き屋根の木造建築のひとつです。

屋根の急勾配と多数の支柱に注目してください。この 2 つの特徴のおかげで、建物は倒壊することなく冬の豪雪に耐えてきました。また、このような長い歴史があるのは、地元の人々が 500 年もの間、必要な道具や材料を担いで山道を登り、神社を修理し、維持してきたおかげでもあります。

この神社は、毎年 5 月 8 日に行われる成長祝いの「七ツ詣り」のメイン会場でもあります。数え年 7 歳になった松苧地域の少年たちがこの神社を参詣します。険しい山道を上る彼らを地域住民が総出で助けます。祈祷と儀式が執り行われた後、全員が下山し、少年たちの親族が彼らの栄誉を称えて祝宴を開きます。

この神社には、剣と軍配（合戦の際、武将が指揮を執るために使用したうちわのこと）の 2 つの重要な遺物があります。軍配は 16 世紀にこの地を治めていた有力大名、上杉謙信（1530-1578）が祭神に捧げたものと伝えられます。剣と軍配そのものは神社には納められていませんが、そのレプリカが「まつだい郷土資料館」に展示されています。